科目ナンバリング	G-LAS12 80053 SJ13						
授業科目名<英訳>	プラットフォーム学セミナー Seminar on Platform Studies			担当者所属職名・氏名	情報学研究科 教授　　原田　博司		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	統計・情報・データ科学系	使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	水5	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（情報学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

本講義では、社会に遍在する各種情報をディジタルデータ化し、そのデータを広範囲に収集し、ビッグデータと呼ばれる大規模データとして蓄積、それらデータの整理、分析、共有するという情報通信（ICT）技術を利用した“プラットフォーム”に関連するテーマについて、農学、医学、防災の観点からプラットフォーム利用の実際、利活用に関する最新研究動向、プラットフォーム利用企業のケーススタディを行う。また、社会に遍在する各種情報を情報通信デバイスによりクラウドに収集し、そのデータを処理し、利活用する技術の基本技術を習得する。さらに講義を通じて得た情報をもとにグループワークの形で社会課題を解決をするプラットフォームの設計を行う。本科目は主としてプラットフォーム学卓越大学院のプログラム担当教員により行われる。

[到達目標]

農学、医学、防災の観点から情報通信技術を用いたプラットフォーム利用の実際、利活用法に関する理解を深めるとともに自らデータを収集、処理する基礎技術を習得する。

[授業計画と内容]

1.　プラットフォームの概要（１回）：本講義で取り上げるプラットフォームの概要、応用分野について説明する。
2.　　農学とプラットフォーム（４回）：農学の観点からプラットフォーム利用の実際、利活用に関する最新研究動向に関するセミナー、プラットフォーム利用企業のケーススタディを行う。
2.　医学とプラットフォーム（２回）：医学の観点からプラットフォーム利用の実際、利活用に関する最新研究動向に関するセミナー、プラットフォーム利用企業のケーススタディを行う。
3.　防災とプラットフォーム（１回）：防災の観点からプラットフォーム利用の実際、利活用に関する最新研究動向に関するセミナー、プラットフォーム利用企業のケーススタディを行う。
4.　プラットフォームにおけるデータ収集と現場環境駆動（２回）：サイバー空間上にセンサー、メーター、モニター情報を収集する技術、またサイバー空間上での結果に基づき現場空間を駆動する技術に関するセミナーを行う。
5.プラットフォーム構築ワークショップ（３回）：講義を通じて得た知識をもとに講義を通じて得た情報をもとにグループワークの形で社会課題を解決をするプラットフォームの設計を行うグループワークを行う。
6.．到達度評価　　１回（レポート試験）

[履修要件]

「プラットフォーム学展望」を受講していることが望ましい。

プラットフォーム学セミナー(2)へ続く↓↓↓

プラットフォーム学セミナー(2)

[成績評価の方法・観点]

グループワークの成果、学期末に出題するレポート課題により評価する。また、平常点、授業への積極的な参加も評価に用いる。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
原田博司『プラットフォーム学II』（Kadokawa，2025）ISBN:9784049112658

[授業外学修（予習・復習）等]

各講義の復習を行い、レポート課題に取り組む。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーはメールのやり取りで随時行う。 メールアドレスは授業中に示す。

[主要授業科目（学部・学科名）]